令和元年 12 月１日発行

かまぼこ

第７４号

発　行　地域力推進蒲田西地区委員会
編　集　地域情報紙編集委員会

わがまちの顔

西蒲田のおもしろ文具店

須山（すやま） 豊久（とよひさ） さん

大田都税事務所の隣、古くからある須山文具店――ご主人の須山豊久さんは〝年代物〟の収集家として知られています。テレビでも紹介されました。

つたで覆われた店構えはかなりの年季が入った感じ。店内も所狭しと昔懐かしい文房具や道具が置いてあって一見骨董店を思わせますが、店名どおり、れっきとした文房具店です。

お店は、以前、多摩堤通りとＪＲ線の立体交差をつくるさい、そこから現在地に移ってきました。

日本の文房具メーカーが新商品を販売するさいの〝実験店〟でもあったそうです。

店内で目についたものを列挙してみましょう。

多くの手回し鉛筆削りや、個人で所有することは殆どないスロットルレーシングカー（プラモデルでアクセルつき）、ダイヤルがない受け専用の黒電話、炊飯器、初期の八ミリカメラ、ＪＡＬやＴＤＡの旅行カバン、インベーダゲームのようなゲーム機（ＡＳＴＲＯＷＡＲＳの記名、音も出る）、刻印器（ペン等に文字を縮小して刻印できる年代物）、昔の火消しが着用していた刺し子の半纏（はんてん、左前に「東京市本郷区切通阪二十一・佐々木商会製」とある）、昭和十二年ごろのライダーパンツ（バイク用本革、新品同様で柔らかい）等々……。これらの殆どは動くし着ることもできるそうです。

そして店頭の自転車。五十年以上も前のブリヂストン製でほぼ当時のままですが、ご主人が今も乗っています。

本年末にスロットルレーシングカーを店内で動かす計画があり、長さ十八メートルほどのコースに電気を流して車のモーターを動かす予定で、皆さんに見に来ていただきたいとのことでした。

このような〝お宝グッズ〟を二百点ほどお持ちですが、ほぼ非売品なのでお譲りはできかねる由。

そしてお店は、現在の須山さんの代で畳まれると聞きました。もったいない。これら年代物を展示する、民俗資料館のようなものを開いていただけないものかと思いました。

須山さんは「隣近所のお付き合いが希薄になり、世間話をしている姿も殆ど見かけない。災害時の助け合いが難しくなっているのではないか。店前に設けた縁台で一服し、将棋を指すような風景がほしい」とも話されていました。

年代物の品々に興味があり、ご覧になりたい方は、一度お訪ねになってはいかがでしょうか。

須山さんから親切丁寧に説明して頂けると思います。

（取材　飯島委員）

祝！　学校給食一三〇周年

多摩川二丁目にあるカセイ食品株式会社は大正一二年に栃木県で誕生し、昭和四年に東京果精食品株式会社となり、昭和四五年から現在の社名となりました。国内初の天然果汁飲料を製造した技術を活用して戦後は学校給食用ジャムなどを製造しています。

学校給食の歴史

明治二二年（一八八九）に山形県鶴岡町（現在の鶴岡市）にある大督寺（庄内藩主：酒井家の墓所があるお寺）の中にある私立忠愛小学校で、おにぎり・焼魚・漬物といった昼食を貧困児童に与えたのが日本では初めての給食とされており、鶴岡市の学校では今でも毎年一二月に、当時の給食を再現したメニューが出るそうです。

その後、各地で一部の子供に対して欠食児童対策としてパンなどが一部の学校で配られました。学校給食臨時施設法が制定されると、一部で学校給食が実施されるようになりますが一九四〇年代に入り食糧事情悪化の為に中断されます。

昭和二〇年（一九四五）以降、アメリカや外国からの食料援助により児童の欠食対策として給食が再開されました。昭和二七年（一九五二）頃からは食糧事情の改善によって全国で完全給食を実施できるようになり、給食の目的は「欠食児童対策」から「教育の一環」（食育）と位置づけられて「学校給食法」が制定されました。

アメリカ合衆国は一九三〇年代余剰作物の有効活用として、学校給食の援助を始めました。第二次世界大戦後、ヨーロッパの支援が一段落し余剰小麦のはけ口として日本がターゲットとなり日本国内の小麦消費拡大運動の一環として学校給食が対象となります。学校給食は米食重視の食生活を大幅に変え、日本にパンや乳製品の消費が定着する一因となりました。

日本が豊かになるにつれ内容は大きな変遷を遂げていきます。

一九六〇年代から七〇年代にかけて脱脂粉乳が牛乳に変わり、昭和五一年（一九七六）には米飯の給食が開始されます。

日本人の食事が洋食化すると、米の生産量の増大と反比例して消費量が減り、余った米の処理のためご飯が主となり、パンは週一回程度になりました。パンをクロワッサンに、汁物をトムヤムクンやボルシチになど、今までなかったメニューも出てきて、近頃は普段の食事と変わりないか上回るほどのメニューが登場しています。食物アレルギー対応特別食を作る場合もあるそうです。

明治 22 年 最初の学校給食（全国学校給食連合

昭和 22 年トマトシチューと脱脂粉乳（同

昭和 30 年代の学校給食風景（同上）

昭和 27 年コッペパン・脱脂粉乳・鯨の竜田揚げ・千切りキャベツ・ジャム（同上）

昭和 52 年　カレーライス・牛乳・塩もみ・くだもの（バナナ）・スープ（同右）

昭和 44 年　ミートスパゲティ・牛乳・フレンチサラダ・プリン（全国学校給食連合会）

平成元年　バイキング給食
左下：おにぎり・小型パン
中下：鳥の香味焼き・ゆで卵・海老の唐揚げ
右下：ニンジングラッセ・ほうれん草ピーナッツ和え・昆布とこんにゃくの煮物・プチトマト
左上：粉ふきいも・さつまいもの唐揚げ
中上：くだもの（メロン・パイナップル）
右上：ゼリー・牛乳
（同上）

平成 15 年　米粉パン、鶏肉とカシューナッツ炒め、ツナとキャベツの冷菜、コーンスープ、くだもの、牛乳（同

学校給食は思い出の源泉

明治二二年から令和元年までの一三〇年間を大急ぎで辿りました。甘く懐かしい思いがしませんか？筆者は昭和三一年生れの六三歳、地元の矢口東小学校と安方中学校で学校給食のお世話になりました。小学校では脱脂粉乳が牛乳に代り、牛乳は牛乳瓶からテトラパックに途中で代りました。おかずの容器は小学校で金物からプラスチックに途中で代りました。先割れスプーンを使い続けましたが、当時心配されていたように、箸が使えなくなることはありませんでした。

ときどき思い出す光景があります。小学校一年生のときクラスで一番立派な体格の男子が給食の肉を食べることができなくて担任の先生に激励され泣きながら食べていたこと、授業中は全く元気のなかった友達がなぜか給食のときだけとても元気だったこと、昼休み休憩時間に校庭で早く遊びたくてあっという間に食べ終わっていた友達、中学生のとき牛乳が嫌いな友達からテトラパックをたくさんもらって部活後に一気に飲んでいたら身長が毎年どんどん伸びたことなど……。

多摩川二丁目のカセイ食品さんをきっかけに学校給食の歴史を皆様と辿りました。食パンやコッペパンに塗ったイチゴやマーマレードジャム懐かしいな。これからも頑張ってほしいなと思いました。

（取材　大良委員）

カセイ食品の学校給食用ジャム
右：イチゴ
下：マーマレー

投稿（ブック）

みつけました！

戦前、道塚小学校の場所にあった御屋敷の航空写真を

藤岡　彰（藤岡皮フ科クリニ

多摩川の砂利の採取で財を成した中務利平氏の広大な屋敷跡に道塚小学校が昭和一三年に建てられたことは、地元では良く知られた話です。ただし、戦災で御屋敷の写真は全て焼失し、伝えられる記憶はあっても、実際の様子を客観的に示す資料は皆無でした。

「戦災で写真は残っていない」ということは逆に「戦前にスパイ活動などで米国は航空写真を持っていたはず」と考え探していたところ、共同執筆者の阿部順吉氏が昭和一一年の航空写真をみつけて下さいました。下に御屋敷と現在の小学校（敷地面積九一四九㎡＝約二七七二坪）を対比して示しますが学校の半分程度と思われます。おそらく周囲の土地も買収されて小学校ができたのでしょうが、それでも一五〇〇坪近い広大な御屋敷です。時代の制約で写真の質は悪いのですが、多くが緑に囲まれた壮大な邸宅であったことは十分にわかります。「敷地の南側に三本のポプラの木がそびえたち、その横に二階建の西洋館があった」という『本紙』第63号の記載からすると、写真の右下部分が建物なのでしょうか。

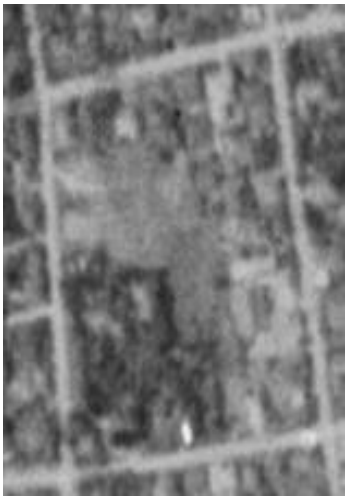
さて、大変参考にさせて頂いたこの記事に「大正六年には多摩川での砂利取りは禁止されてしまいます」とありますが「明治三三年から続いた東京市直営事業が廃止になりました」ということの補足が編集委員会からありました。

砂利の輸送が目的の目蒲線（現多摩川線）の開設は大正一二年で、昭和二年開業の南武線は、大正九年に多摩川砂利鉄道として施設免許を取得しています。両者とも関東大震災後の東京復興に必要な砂利の運搬に大きく役立ちました。

多摩川の砂利採掘禁止は二子橋の下流は昭和九年（ただし多摩川の全面禁止は昭和四三年）が正しいようです。その前後から中務氏の事業は苦しくなり邸宅もお化け屋敷の様に荒れ放題になって手放されたのではと想像しています。

地元に昔あった、江戸川乱歩の小説に出て来るような広大で不気味な御屋敷。いろいろ思いを馳せることで、ちょっとした楽しい時間を持つことができます。

（協力　大良委員）



右は昭和11年6月11日に陸軍が撮影した航空写真。
左は平成19年4月27日に国土地理院が撮影した航空写真。
どちらも同じ場所で写真の上方向が北側です。
（阿部順吉氏提供）

「かまにし17」をお読みいただき、ありがとうございます。情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などございましたら、お気軽に事務局までお寄せください。

事務局　蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七－一一－一
電話　３７３２・４７８

蒲田西特別出張所管内

人口	男	32,427 人
	女	30,054 人
	計	62,481 人
世帯		35,815 世帯

令和元年11月1日現在